令和６年度　大学生のためのボランティア活動推進事業

「つくってあそぼう！わくわくキャンプ～冬の大冒険～」

１．事業の概要

①企画・運営

国立室戸青少年自然の家所属の法人ボランティア

②事業のねらい

仲間たちとともに課題に取り組んだり１つの作品を作り上げたりする体験をとおして、協働する力や自己肯定感を育む。

③実施期間

令和６年 12 月 14 日（土）－12 月 15 日（日）

④活動場所

国立室戸青少年自然の家

⑤参加者

チラシやホームページを見て応募をした、高知県内の小学４－６年生　３０名

２．事業の様子

【1 日目】12 月 14 日（土）

高知県内の小学校への広報により集まった小学４－６年生３０名の参加者での事業実施となった。開講式と昼食の後、活動が始まった。「アイスブレイク」では、自己紹介ゲームや人間知恵の輪などのゲームを通して緊張がほぐれたり、同じ班の仲間同士で楽しんだりしている様子が伺えた。次に「宝物は誰の手に！？ミッションウォークラリー！」を行った。5 班に分かれた参加者は、所内各所に散りばめられた、ボランティアリーダーからのお題を班で協力しながら制限時間以内にゴールを目指した。お宝（木工工作や手形アートの装飾品）のゲットを目指して活動に取り組む中で、コミュニケーションを取り、協力しながら楽しむことができていた。

夕べのつどいと夕食の後、「何ができるかな？木工工作」を行った。木の枝やドングリなどの材料やミッションウォークラリーでゲットした装飾品を使って、思い思いに海の生き物をテーマにした作品を作った。ボンドやグルーガンなどの限られた道具を声を掛け合ったり譲り合ったりしながら、協力し合って作業を進めている様子が見られた。鑑賞の時間には、班内でお互いの作品のすてきなところを伝え合う時間を設定した。この時間を通して、それぞれの参加者が嬉しさや達成感を得ることができた。

【2 日目】12 月 15 日（日）

朝のつどいと朝食の後、「みんなで完成させよう！手形アート」を行った。画用紙を繋ぎ合わせた大きな台紙に、参加者が海をイメージしながら好きな色を使って手形を押していった。活動の中で、「〇〇ちゃんはどこに押したい？」「ここに来ると押しやすいよ」など、お互いに声を掛け合ったり気遣い合ったりしながら活動しているのが印象的であった。班ごとに手形を押した台紙を 1 つに合わせると、とても大きく綺麗な手形アートが出来上がった。5 つの台紙を合わせた瞬間には、大きな歓声があがり、完成を喜んだ。ふり返りの時間には、ボランティアから価値づけを行うとともに、参加者が事業に参加した感想や考えたことの発表を行った。「みんなで協力していろいろな活動ができてよかったし、みんなでやるからこそ楽しいことが多かった。」「参加して、いろいろな人と出会って友達になったり、団結したりできたのがすごくうれしかった。」などの声が聞こえた。

３．参加者の声

「人と人との協力で新しいことを知って、たくさん友達ができてよかった。」4 年生・女子

「室戸ボランティアリーダーのイベントがまたあるなら参加したい。」4 年生・女子

「このキャンプで、いろいろな人と協力すると、たくさんの友達やすてきなものを作れるということがわかったので、このことを思い出しながら生活をしていきたいです。」4 年生・女子

「5000 円とは思えないほど楽しめたし学べたしうれしかったし、とても楽しい思い出になってよかったと思いました。」4 年生・男子

「いろんなことを学んで、特に学んだことは団結力だと思います。これからのキャンプでもこの団結力を班と一緒に築いていきたいと思います。次のキャンプも楽しみにしています。」5 年生・女子

「協力する大切さがわかりました。私も大学生になったら、このようなイベントを作ってみたいと思いました。」5 年生・女子

「友達と協力していろいろなことができることや、人は人との関わりでいろいろなものを生み出していくこと、人はやっぱり人とのつながりがないと生きていけないことを学びました。」6 年生・女子

「初めは、友達とか少なくて、一人でのんびりするほうがよかったけど、友達と多く接することで、友達とわちゃわちゃするのも楽しいと思った。」6 年生・女子

４．成果と課題

【成果】

・協力することの楽しさや素晴らしさについて言及したり、達成感を感じたりしている参加者が多く、事業のねらいを概ね達成することができた。

・逐一情報共有等を行いながら、様々な事態に柔軟に対応し、安全かつスムーズに事業を運営することができた。

・企画から運営にいたるまで苦労することも多かったなかで、積極的にミーティングや試行を行い、事業をやり抜いたことで、ボランティアリーダーにとって大きな成長の機会となった。

【課題】

・アイスブレイクを楽しい雰囲気で行うことはできたが、緊張もあり難しく感じている参加者もいた。さらにシンプルで分かりやすく楽しめる内容であれば、よりよいアイスブレイクとなったのではないだろうか。

・参加者が協働を意識できるよう、各プログラムにおいて作戦タイム等の話し合いの時間を積極的に設定していた。話し合いは進んでいたものの、特定の参加者の意見が強くなっている場面も見受けられた。参加者に委ねる部分も大切だが、もう少し積極的に助言やファシリテートを行うことで、よりよい話し合いになったのではないだろうか。